

「植物症患者を中心に、
ポーランドとの友好関係を築きたい」

(世の中は少し変わりつつあるのかな?)

世界脳神経外科学会 終身名誉会長
特定非営利活動法人国際医療連携機構 理事長
藤田保健衛生大学 名誉教授
アジア脳神経外科コンGRES 名誉理事長
医療法人コジマ会ジャパン藤脳クリニック 名誉院長

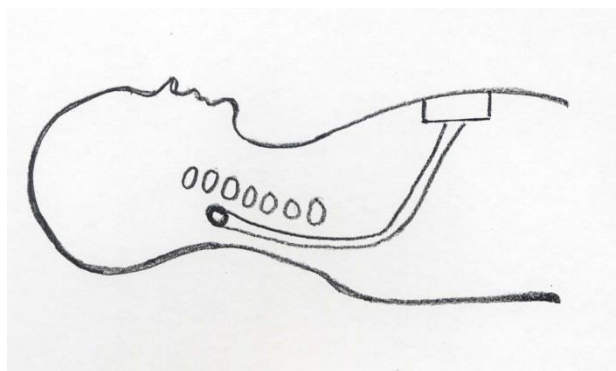
神野哲夫

I： 頭部外傷、脳卒中など、人間の病気の中でも、最重症の分類に入る病気の最も悲惨な結末は勿論「死」である。

そして、幸か不幸か死を免れた後でも、最も本人、及び御家族にとって重篤な状態は遷延性意識障害、俗に言う「植物状態」である。目は開けているが、周囲への反応はなく、自力で食事することも出来ず、手足もほぼ動かない。このような状態がしばらく（数か月～数年）続いた後、多くの患者さんが短命で亡くなっていく。年齢に関係がない。

このような状態は、勿論、本人にとっては大変なことであろう（ただ、彼等にそう思う思考能力が残されているかはわからない）。そして何よりも大変な思い、辛い思い、大きな負担を抱えるのが御家族である。食事から何から何まで、面倒を見なくてはならない。日本では、従来はこのような患者さんを長期に入院させる病院は殆どない（病院経営にとって何の益にもならないから）。御家族は、患者さんを家庭に引き取り面倒を見る。全ての面倒を見る。家族揃って、時には外食を！などは夢のまた夢である。患者さんのみを家に残しておくわけにはいかない。

II： 医師、医療者にとっても、このような患者さんの治療、ケアは難しい。治療法は殆どない。ただ、小生は1985年「脊髄後索電気刺激療法」を開発した。世界で初めての治療法の開発であった。現在まで約三百例の治療を重ねている。詳しくは以下の論文を参照されたい（PACE II（1～2月）、1987、PACE II（4月）1989、Neuromodulation Vol.1・12 2009）



Ⅲ： 治療は医師にとって、あまり関心の持てる領域ではない。特に脳神経外科医にとっては、脳腫瘍の手術、脳卒中の手術などの方が手術技術を駆使するという面で、はるかに興味を持つ（特に多くの「俺は神の手を持っている」などと言う脳神経外科医にとっては、全く無関心な領域である）。

しかし、無関心でいるわけにはいかない。特に御家族の御苦勞を知れば知るほど。

そこで小生は脳神経外科医を対象として、意識障害学会を 1992 年に創立した。2017 年の現在、多くの参加者がおり、盛大な会となっている。



第三回意識障害研究会（1994）



第25回 意識障害学会 (Coma Society)

2016年7月22～23日

かがわ国際会議場(タワー棟)
サンポートホール高松(ホール等)

IV： そして、辛い思いをされている御家族のために 2002 年に「御家族の会」を創立した。同じような患者さんを御家族に持たれている桑山雄次氏が会長となられ、以後のこの会はどんどん発展している。御家族の日常の世話の仕方など、看護師、介護士の方々よりも熱心に学ばれている方々（紙屋克子、日高喜久江）が中心となられ活動している。



桑山 雄次 殿

第19回 意識障害研究会

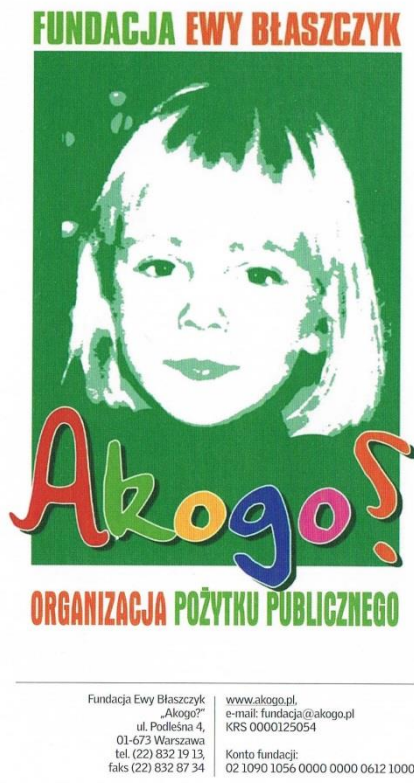


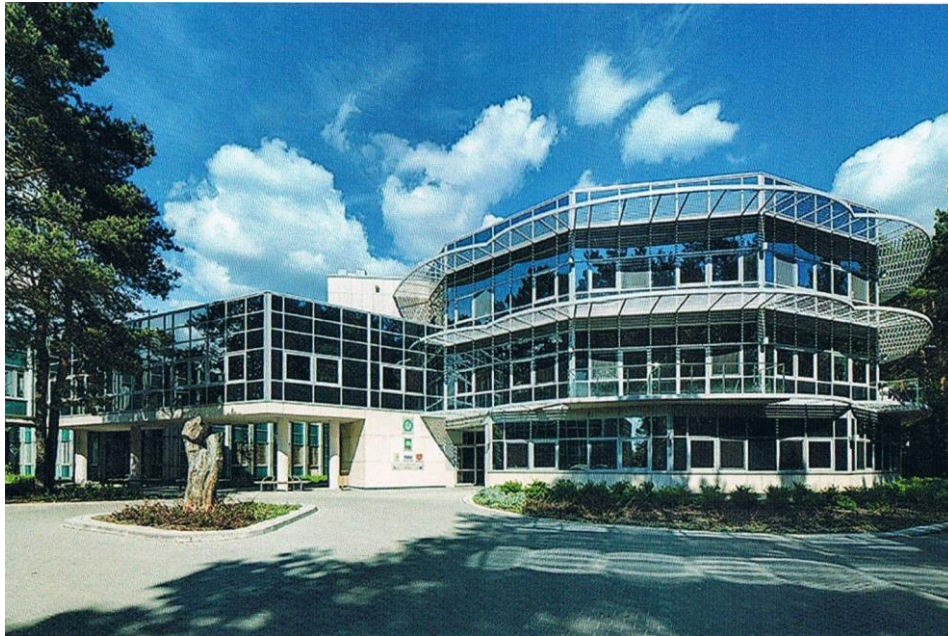
V： 小生はこのような活動は世界の中では、日本のみで行われていると思っていた。しかし、2015 年、ポーランドより一通の招待状が届いた。「Akogo?」と言うポーランドの植物症の患者さんを持つ御家族の会からであった。

(Akogo?=ポーランド語で「私は今何処にいるの?」)

ポーランドで有名な歌手、日本で言えば越地吹雪さんのような評価のある方

(Ewa Blaszczyk) の娘さんが頸部脊髄の手術後、植物状態となり、ポーランドに他にこのような患者さんを持つ家族が大勢おられることを知り、創立したとのことであった。Ewa が、小生らの論文を読み、招待して下さった。約 45 分の講演をした。また、Ewa は、植物症の患者さんのみを対象とした病院も建てられた（日本ではかつてこのようなことはなかった）。その病院で回診もさせて頂いた。





Ewa Blaszczyk

その翌年、私共の藤田保健衛生大学脳神経外科の森田功教授がポーランドに行かれ、5例手術をし、そのうち数例は極めて良い結果でポーランド人は大変驚いておられる。

VI： その後、このような治療法、このような患者さんへの思いなどが、ポーランドのみでなく、ロシア等の東ヨーロッパに広がっている。そのきっかけを作ったとして、小生と森田教授は、2017年10月、ポーランドの Warmia and Mazury 大学より招待され、「Doctor Honoris Causa」名誉賞とも言える賞を頂いた。心より感謝申し上げる。





ただ、これらの賞を頂いたのは、私共に対してのみでなく、脊髄後索電気刺激療法を開発し、発表させてきた藤田保健衛生大学脳神経外科の同門の亀井義文先生、横山哲也先生、山口幸子先生、尾内一如先生、垣内孝史先生らの多くの同門一同に対して頂いたものと思っている。



VII： 藤田保健衛生大学病院に「植物症」専用病棟の設立が決まりました。

国交省はこの度、藤田保健衛生大学病院内に植物症（遷延性意識障害患者）専用の病棟を造ることを認可され、支援されることを決定されました。

森田教授らの長年の努力がようやく実りまして嬉しい限りです。

この認可には、日本大学脳外科名誉教授 片山容一先生、久留米大学脳外科名誉教授 重森稔先生らの御指導、御教授を頂いたことが大いに力となりましたこと、ここに心より御礼申し上げます。

VIII： ポーランドはかつての世界大戦により、ドイツのヒットラー、ソ連のスターリンらに木端微塵に二度も破壊された国であり、そこから再び立ち上がってきた人々である（我々日本人がアメリカに叩き潰された後、徐々に立ち直ってきたのに似ている）。ポーランド人は心は強く、優しい。弱者への本当に温かい目線を持たれている。このような人々と今後、長くお付き合いをしたいと心より思う（日本で開催される意識障害学会に招待し、医師のみの交流でなく、看護師、そして患者御家族の交流も盛んにしたい）。

そして、医学も次の時代に移りつつあるのではなかろうか。医者も派手な物言いで、テレビで芸人とワイワイ言う時代はそろそろ終わりではなかろうか。